

目 次

1. 蚕糸業の幕あけ		
桑栽培の奨励	1	
村々への浸透	3	
松代藩の専売制と八田家	6	
2. 開港後の蚕糸業		
松代藩の生糸政策	7	
松代騒動	8	
3. 近代蚕糸業		
六工社の創業	10	
大里忠一郎	13	
和田英	14	
六工社の生糸輸出	16	
松代の製糸業	18	
さまざまな商標	20	
4. 女工の生活		
松代の女工	24	
立ちあがる女工	28	
5. 松代製糸改良組	29	
6. 長野盆地の養蚕		
いろいろな養蚕書	30	
カイコから生糸へ	31	
長野盆地の生産暦	32	
掃立て	35	
給桑	36	
カイコを飼う	38	
上簇	42	
スクラオリのいろいろ	45	
収繭	47	
糸をとる	48	
7. カイコをまつる	51	
お札	52	
石祠	53	
百瀬の蚕神さま	54	
川中島・養蚕神社	56	
芋井のオンナガミサン	57	
松代町豊栄・虫歌観音	58	
資料目録	59	

例 言

1. 本書は長野市立博物館第27回特別展「蚕糸業にみる近代の長野盆地」（平成2年10月7日～11月23日）の図録である。
2. 紙面の都合上、本書には展示資料の一部しか掲載できなかった。
3. 本書の内容は陳列の順序とは必ずしも一致しない。
4. 本企画展を開催するにあたり、資料の提供および貸与をしていただいた方々は冊子末に記した。お許し願いたい。
5. 本書の執筆・編集は、当館職員の前田和彦が担当し、図版作成等は、山口明、大蔵満、前島卓が担当した。

開催にあたって

長野県は、戦前にあっては「蚕糸王国」といわれ、蚕糸業が経済活動の中心でした。

長野盆地にあっても、近代の歴史を考えると、忘れてはならないのは蚕糸業の存在でした。

埴科郡西条村に、官営富岡製糸場を模範として民間人の手で作られた六工社は、長野盆地に「近世」の終焉と、近代の幕あけをもたらしました。

官営富岡工場に伝習工として入場した横田英は、その青春期を六工社などの蚕糸業の育成に費やしました。その後、松代にあってはこうした伝統のもとに製糸工場が多く立ち並び「信州エキストラ」としての地位を築いていきました。

また、養蚕にあっても、松代藩による奨励策以来、長野盆地では、多くの農家が行なうようになりました。そうした飼育方法も、さまざまな変遷をたどっています。

明治以降、長野盆地の各地で、カイコを祀り、豊蚕を祈るようになります。これは、従来の農業神から蚕神だけを独立させたものでした。

現在、長野盆地には製糸工場もなくなり、養蚕農家も少なくなると共に、飼育方法も様変わりしてきています。私たちの住む長野盆地が、近代という時代をどのように過ごしてきたのか、蚕糸業を通して考えていただければと思います。

開催にあたり、貴重な資料の御提供等、ご協力いただきました多くの方々へ心からお礼申し上げます。

平成2年10月

長野市立博物館